

戦車情景上級技術ガイド

戦車模型マスター パオジンダのミリタリー情景世界

クレーンクライ・パオジンダ/著



ADVANCED TANK DIORAMA TECHNIQUES

戦車情景上級技術ガイド

戦車模型マスター パオジンのミリタリー情景世界

クレンジ・パオジン / 著

US M26 Armored Tank Recovery Vehicle



ADVANCED TANK DIORAMA TECHNIQUES

THE CREATIVE WORLD OF KREANGKRAI PAOJINDA

戦車情景上級技術ガイド

戦車模型マスター パオジンドのミリタリー情景世界

Contents

- 004 **CASE 01**
主役、車両の仕上げを考える
- 006 Jagdpanzer 38(t) "HETZER"
- 014 Marder I abandoned in Vesoul, France - 1944
- 020 T-72B Burn out
- 028 **CASE 02**
情景を彩るフィギュアたち
- 030 Tiger I "S02" 2nd SS Panzer "Das Reich" Division, Battle of Kursk 1943
- 038 " The Road to Barbarossa "
- 046 **Column**
情景職人の仕事部屋
- 048 **CASE 03**
気候を表現する
- 050 M551 Sheridan M551 Sheridan VIETNAM WAR
- 058 Pz.Bef.Wg. III Ausf. K Winter white wash camouflage Panzer III
- 066 British Scammell Pioneer "Recaptured and Salvaged"
- 080 **CASE 04**
情景のストラクチャー
- 082 US M26 Armored Tank Recovery Vehicle
- 090 Libyan T-62 "The Fall of Sirte" Libya 2011
- 102 88mm Flak 36 Berlin 1945
- 114 German s.F.H 18 15cm "The German Army Field Howitzer"
- 126 **Q&A with Mr.Paojinda**
戦車模型マスターの日常

著者紹介

Kreangkrai Paojinda

クレアंकライ・パオジンダ

1982年生まれ、タイ北部のプレー県在住。SNSを通じ急速に注目を浴びた新世代タイ人プロモデラー。SNS映えする作風は世界中のモデラーの心を掴んで離さない。新しいマテリアルや技法を積極的に取り入れつつ、多数のダイオラマ作品を製作。製作の速さも彼の持ち味のひとつで、年間20作品以上を完成させるスピードは驚異的。SNSのほか、書籍や雑誌でも多数の掲載歴をもち、戦車模型専門誌「月刊アーモモデリング」でも多くの傑作が誌面を飾ってきた。本書ではそんな彼の12の作品を通し、AFVダイオラマの醍醐味やテクニックを解説する。



Introduction

戦車模型は世界中で親しまれている趣味だ。世界中で戦車のプラモデルが作られ、世界中で流通している。戦車模型に国境はない。そして世界は広い。世界中に完成品があふれ、SNSなどに完成写真がアップされる。それを見て我々モデラーは思うのだ。「世界にはこんなにうまいモデラーがいるのか」と。戦車模型がうまくなるコツ、それは「良い作品を見ること」だ。いい作品を見て、なぜよく見えるのかを分析することで自分の作品作りに活かすことができる。たくさん人の作品を見ることは、模型経験値を高めてくれる最高のエッセンスなのだ。本書ではそんな世界中のAFVモデラーからクレアंकライ・パオジンダさんにフォーカスを当てる。ときには技術やセンスの高さから、簡単にマネできないテクニックもあるかもしれない。しかしどのように作られ、なぜ魅力的なのかを分析することで、世界で活躍するモデラーに一歩近づけるのだ。ぜひ彼の作品を鑑賞してその魅力を堪能し、模型熱を高めていただきたい。





いくら大掛かりな情景作品でも、主役である戦車がイマイチだと、ほかのところを作り込んでいても見劣りする作品になってしまうだろう。何といっても主役である車両を魅力ある作品に上げることが重要だ。ここでは戦車に簡単なベースが付いた作品を紹介。簡単というが、狭いスペースでも魅力的な作品になっている。少ない情報量でいかに魅力的に見せるか、そして主役の戦車をどう目立たせるか。いきなり大掛かりなダイオラマに挑むのではなく、まずは小さな一歩から取り組むことが重要だ。

WORK

1

Jagdpanzer 38(t) "HETZER"

実際の戦場写真をもとに製作された作品。だがパオさん流のアレンジが加えられ、非常に見どころの多い作品となっている。状況を語る演出、鮮やかに塗られた車体色など、パオさんの模型力の高さが垣間見える逸品。

□ ドイツ駆逐戦車ヘツァー 中期生産型 (タミヤ 1/35)



WORK

2

Marder I
Abandoned in Vesoul, France - 1944

こちらも実際の写真を参考に作られた作品だ。植物で擬装している様子は、そのまま再現すると車両が分かりにくくなってしまう。状況を想起させるアクセサリーで、ヴィネットでもストーリーを演出。

□ マーダー I 7.5cm Pak.40/1 auf Gw.Lr.s(f) Sd.Kfz.135 (バンダホビー 1/35)



WORK

3

T-72B Burn out
"Ukraine conflict, 2014"

派手に撃破されたT-72が登場。ウクライナで使用された車両を再現している。ウクライナは土の情景にしがちだが、コンクリートの地面で演出。さまざまなバトルダメージを与えることで、飽きさせない作品になっている。

□ ソビエト軍 T-72B/B1主力戦車"コンタクト1" (トランベッター 1/35)







WORK 1

Jagdpanzer 38(t) "HETZER"

車 両単品作品が完成したら、あわせて作りたいのが簡単なベースやフィギュアだ。地面やフィギュアが存在は、車両をよりドラマチックに演出してくれる。ダイオラマを作るのがむずかしいときでも、小さめの地面やフィギュアは追加したいところだ。情景作品にすることで、作品に見どころを与えるだけでなく、どのような時期にどのように戦って、そしていまはどういった状況に置かれているのかを明確に示すことができるのだ。時代、国、季節、戦線、そして魅力的なストーリー。誰しもどういった戦場で製作している車両が戦ったのかを想像しながら作るものだ。その想像や史実、伝えたいテーマをより明確にするためにもベースを付けてあげよう。ダイオラマの習作としても最適だ。ここで紹介しているパオジンダさんの作品は、ただ戦車に情景ベースをつけただけ、という枠にとどまらない。少ないスペースで最大限ストーリーを伝える、パオジンダさんの表現の可能性を感じて欲しい。



Step 1

車両の製作

ヘツァーの車体の铸造、圧延鋼板の質感の差を再現。被弾痕やエッチングパーツの曲げ加工でダメージ表現も行ない、この時点で車両が置かれた状況をより明確にしておく。

1



▲M10の76mm砲弾による被弾痕と側面車体への損傷を再現するため、装甲板の弾痕を作る。まずピンバイスで穴を開け、カッターで側板に亀裂を入れて切り取り、徐々

2



に曲げた。キットの装甲板の代わりに0.5mmプラ板を使用し、実物に近い鋼板の厚みを再現。フェンダーやシュルツェンはエデュアルド社のエッチングパーツを使用。

3



▲ヘツァー砲の砲盾に鑄鋼装甲の質感、車体は圧延鋼板を再現するためラッカーバテを古い筆で軽く叩くように塗布。乾燥後、紙ヤスリで表面を整えた。



Step 2

車両の基本塗装と迷彩の筆塗り

このヘツァーをはじめ、大戦後期のドイツ軍車両に多く見られるアンブッシュ迷彩。面倒な迷彩と捉えられがちだが、筆塗りとエアブラシを併用すれば効率よく仕上げることができる。

1



▲オキサイドレッドと陰、排気管に錆の下地をエアブラシ。その後、全体にAKインタラクティブの剥がれ表現液を吹き付けた。この色がのちのチッピングで露出する。

2



▲AKインタラクティブの3G、RAL7028 デュンケルゲルプ(初期)をエアブラシで塗装。その後、少量の白を混ぜてハイライトを表現した。

3



▲2色目はRAL 6003 オリーブグリーンで筆塗り。下書きは行っていないが、キットに付属するカラー塗装図を参照しながらうすく重ね塗り(2~3回程度)している。

4



▲緑の内側はエアブラシを用いて塗りつぶす。エアブラシはつねに迷彩の輪郭の内側に向けるよう意識して吹き付け、ダークイエローの面にかからないように注意する。

5



▲3色目はRAL 8012。空間を埋めるように茶色の面積を増やす。ここでも塗っては乾燥を繰り返し、2回ほど重ね塗りを行なって塗装ムラが出ないようにしている。



▲最後に細筆を用いて小さな三角形を描く。基本色のダークイエローの三角形を、オリーブグリーンとレッドブラウンの上に重ねて塗った。また、基本色のダークイエローの上にもレッドブラウンの三角形を描き込んでいる。

Step 3

基本塗装を チッピング

下地に塗装したオキサイドレッドや錆の色を露出させる、チッピングの作業。被弾した車両なので、激しいダメージ表現がよく似合う。筆塗りによる描き込みの併用にも注目。



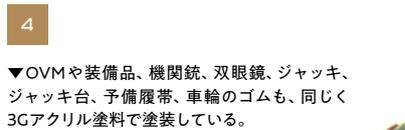
▲水に浸した筆で表面を濡らし、その後、硬い毛のブラシで縁や角を優しくこすり落とす。



▲サイドフェンダーの塗膜はつまようじで削り、引っ掻きキズの効果を生み出している。



▲さらに細筆で表面全体に細かいチッピングを上塗り。この工程にはAKインタラクティブの3G、チョコレート(チッピング)の色合いが非常に適している。



▼OVMや装備品、機関銃、双眼鏡、ジャッキ、ジャッキ台、予備履帯、車輪のゴムも、同じく3Gアクリル塗料で塗装している。



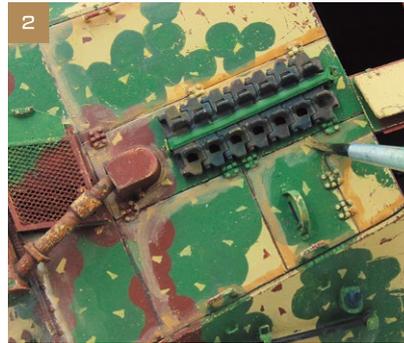
Step 4

車両のウェザリング

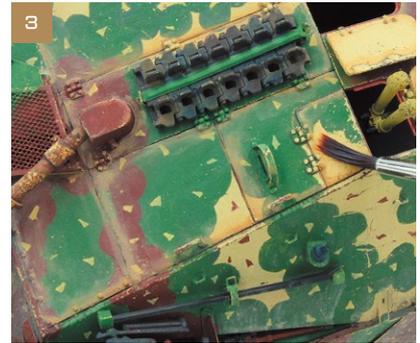
汚れのレイヤーを重ねていく。油絵具、ペースト素材、エナメル系塗料など各マテリアルの特性を活かしながら作業を進める。迷彩塗装やチッピングの効果を消さないよう注意。



▲デカールを貼り付け、半ツヤクリアーでコートした後、汚れや埃をアブタイルンク502 (油絵具) で再現する。使用色はABT035 バフとABT130 マッドダーク。



▲車両上部、エンジンデッキのパネル周辺に汚れや堆積した埃を再現。油絵具を混ぜ合わせ、エンジンコンバートメントカバーにはABT093アースとABT035バフを使用。



▲その後、うすめ液を少量含ませた柔らかい筆で油絵具の境界をボカす。迷彩塗装の層と馴染ませるようなイメージで作業した。



▲土の汚れや埃の蓄積の表現が満足いくまで作業し終わるとひと晩ほど放置し、油絵具が完全に乾くまで待つてから次の工程に移る。



▲厚い泥を塗布するのに最適なツールは爪楊枝。下部車体の車輪、駆動スプロケット、前後フェンダーの一部などランダムな箇所に塗布することを心がける。



▲泥のテクスチャーの上に油絵具ABT130ダークマッドで泥色の層を追加。この油絵具が車両と泥の境界を滑らかに繋ぐ役割を担ってくれる。



▲エナメル系塗料のウェットエフェクトフルード(濡れた表現液)は透明感のある光沢、湿り気、水分を再現し、非常にリアルな質感を実現することができる。



▶油絵具ABT130ダークマッドにウェットエフェクトフルードを加え、希釈して泥色を作成。泥濘地を行動した車両の飛沫汚れを再現。



▲履帯はアクリル絵具のダークブラウンとブラックで行ない、その後油絵具でウォッシング。ダークマッドとライトマッドを混合し、乾燥した泥の付着を再現した。



▲履帯部分に付着した厚い泥を表現する。アクリル系のペースト塗料、AK8030 スプラッターエフェクト、AKドライシーグラス、MIGピグメントを組み合わせ使用。



▲完全に泥濘化した地面でも明確に確認できる履帯のセンターガイドの擦れを、AKインタラクティブのウェザリングペンシル アルミニウムで再現。

Step 5

車両の偽装、 フィギュアの製作

記録写真で確認できる偽装用の針葉樹の葉を追加し、仕上げ作業に入る。フィギュアはオリジナル設定だが、作品のシチュエーションを明確にする効果的な存在だ。



▲偽装は天然の乾燥苔を使用し、グラベル&サンドフィクサーに浸してモス表面をコーティング。これにより使用時の強度が向上し、塗装も行ないやすくなる。



▲苔を着色して葉のさまざまな色合いを再現した後、それらを接着剤で貼り合わせて枝葉に見せ、周囲に張った金属線やU字フックに挿入して固定している。



▲戦車乗員フィギュアの塗装もAKインタラクティブの3Gアクリル、ドイツ軍制服カラーセットを使用。顔の仕上げにはアクリルスキン&レザーカラーセットを若干混ぜて仕上げた。



▲車体と同じ要領で地面の泥を製作。泥が完全に乾いたら、グラベル&サンドフィクサーで草や砂利を固定した。泥色の油絵具とウェットエフェクトフルード(濡れた表現液)を用い、さらにリアルな仕上がりを目指した。

Explanation of the Diorama Work

「Jagdpanzer 38(t) "HETZER"」のミドコロ

実写を元にアイデアを膨らませ、
物語を感じさせる情景作品にPoint
1Point
1

アレンジでストーリー性を持たせる

本章冒頭でも説明した通り、実車写真にインスピレーションを受けて製作された作品だ。写真を再現するときは写真の通り作るのが一般的だが、パオジンダさんの場合はアレンジの効いた作品になっている。この車両が撃破された瞬間どうなったのか、ストーリー性のあるところが魅力的だ。

Point
3Point
2

Point 2

小さな作品でも見どころを作る

本作は大きなダイオラマではない。ひと回り小さなヴィネットに分類されるだろう。ヴィネットではストーリーが犠牲になりがちだが、少ないフィギュアで完璧にストーリーを語っている。作品の注目箇所だ。被弾し、ぬかるみで前のめりになったヘツァーとすることで、車両の見せたい部分、そしてフィギュアが強調されているのもポイントだ。

Point 3

迷彩そのものの鮮やかさ

AKインタラクティブの3Gシリーズを使って鮮やかに塗られた車体も注目したいところだ。迷彩の輪郭は筆で塗られているが、いわゆる光と影迷彩は屈指の難易度。パオジンダさんの技術の高さが垣間見えるところだ。専用色を使うことで、時間が短縮できるうえに鮮やかに戦車が仕上がる。いいものを使って作品をよりよくするところは参考にしたい。





WORK 2

Marder I

Abandoned in Vesoul, France - 1944

ハオジンダさんの作品はさまざまな要素が盛り込まれているが、ここで紹介している作品もそのうちのひとつだ。最小限のグランドワークと、一体のフィギュア。戦車模型情景の基本ともいえるシンプルな構成にも関わらず、圧倒的な情報量を感じ取ることができる。戦車模型のダイオラマはフィギュアでストーリーを語ることが多いが、この作品のフィギュアはひとり。地面の様子や車両の状態、まわりに散らばっている小物、立っているフィギュアが何軍なのによって、車両がどういった状況をたどってきたかを明確にしているのだ。また、一見シンプルに見えるこの作品にも、さまざまなテクニックが盛り込まれており、鑑賞者を飽きさせない工夫が随所に詰め込まれている。うまく作れば、大規模なダイオラマの方がストーリーを語るのは簡単だ。しかしシンプルな構成で魅せることができれば、ダイオラマを製作する際もより魅力的なストーリーを描くことができるだろう。このようなシンプルな作品でも見応えある作品に高められるポイントを見てみよう。





Step 1

車両の工作

本作品の主役、マーダーの組み立てだ。多少のディテールアップはしているものの、そこまで大きく手を加えていない。この段階で情景の基本のレイアウトは完成している。

◀バンダホビー製のマーダーIの組み立て。パオジンダさん曰くタミヤ製のものが出るまでは最高のマーダーのキットだったそうだ。伸ばしランナーと流しこみ接着剤で溶接跡を追加。迷彩用のメッシュネットを固定するために銅線で作った小さなU字フックも追加している。網は果物ネットで再現している。

Step 2

車両の塗装

車両の塗装に移る。特殊なことはあまりしておらず、オーソドックスな手順で塗装されている。専用カラーを使うことで調色の手間も必要なく、快適に塗装することができる。



▲Mr.オキサイドレッドサーフェイサー1000で下地塗装。強固で滑らかな下地を作る。チッピング液を塗布し、チッピングのための準備しておく。



▲基本塗装はAKインタラクティブのリアルカラーRC5004のセットを使用する。まずはダークイエローを塗装する。



▲次にオリーブグリーンを塗装する。フリーハンドでエアブラシ塗装されている。慣れとコツがある作業なので、プラ板などで練習するとよいだろう。



▲実車の迷彩塗装を参考にブラウンを塗装。赤みがかった色にしたかったので、Mr.カラーのシャインレッドを少し混ぜている。



5️⃣ていねいに爪楊枝などをこすりつけて表面を剥がし、チッピング効果を付ける。

6️⃣搭載されている対戦車砲はスポンジでチッピングをする。AK-711チッピングカラー(ダークブラウン)を使用した。

7️⃣ディテールはAKインタラクティブのスタンダードツールカラーで塗装している。ツヤありのクリアーを塗装してデカールを貼り、つや消しクリアーで全体をコート。駐退機はガンメタルで塗装した。



▲アブタイルク502の油絵具でドットィングをする。「マッピングテクニック用ライト&シャドウ」のセットを使用して、色あせた効果を表現。



▲柔らかい筆にエナメル系うすめ液を少し含ませ、垂直方向に筆を動かして油絵具をぼかす。つねに筆を清潔に保つことが成功のカギだ。



▲アブタイルクのABT302 車輛用油彩ウエザリングセットを使用して、足周りの汚れを表現する。スパッタリングの要領で作業し、余分な部分は拭き取る。



▲乾いた泥を表現するため、ピグメントを使いウエザリング。ヨーロッパアンズやノースアフリカダストといった色を使い、ピグメントフィクサーで固定する。



▲履帯にもエナメル系塗料や油絵具でサビや汚れの表現を付け、AKインタラクティブのグラファイトディテールペンシルで金属が磨かれた部分を再現する。

Step 3

擬装と仕上げ

本作品でカギとなる要素、それは擬装に使われた植物の存在だ。スケール感を損なわないように、ひとつひとつの葉をていねいに接着。リアルな植物に仕上がった。



▲メッシュネットはダークスチールとダークラストのアクリル系塗料で塗装する。ネットは瞬間接着剤を使い慎重に取り付ける。



▲カモフラージュの枝と葉は、NOCH製の乾燥植物にスプレー式の接着剤を吹き付け、葉を貼り付けて再現。オリーブグリーンとブライトグリーンで塗装する。



▲グランドワーク。石量はさまざまな色味のアクリル系塗料で塗装し、エナメル系塗料でウォッシングやスパッタリングをして仕上げる。



Explanation of the Diorama Work

「Marder I Abandoned in Vesoul, France - 1944」のミドコロ

一見シンプルな構成のなかに秘められた工夫

Point 1 擬装と車体のバランス

ノルマンディー戦で活躍したマーダー。その擬装している姿を再現しているのが本作品だ。擬装は本来車両のシルエットを画すぐらい盛りつけられているが、模型で再現すると車両のカッコよさが失われてしまう。本作では、放棄され擬装が落ちた状態を再現。そうすることで車両のカッコよさが分かるギリギリのラインを保ちつつ、模型的見どころとなる植物素材での再現を実現している。

Point 2 アクセサリーで物語を演出

この作品も実車写真を参考に製作されたものだが、模型でそのまま再現するだけというのもおもしろみに欠ける。今回はノルマンディー戦で放棄された車両なので、周りに空襲きょうやジェリカンを散乱させて、どういう状況で放棄されたのかを表現している。よくみると給油中だったのか、ポンプのついたドラム缶もある。どういった状態でこの状態に至ったのか。鑑賞者の想像に委ねるところもおもしろい。

Point 3 石畳の見せ方とフィギュアが存在

石畳はまっ平にしがちだが、そのままでは単調になりがちだ。本作では段差をつけて車道と歩道に分けることで、作品に変化が生まれている。米兵のフィギュアを立たせることで、車両の華奢な感じも演出。マーダーはフランスのロレーヌ・シュレッパールという小さな車両を改造した自走砲。その無理やり改造した雰囲気や装甲の薄さ、スケール感がフィギュア存在で引き立つ。ストーリーだけでなく車両の存在感も伝える。





Point
1

Point
3



WORK 3

T-72B Burn out

"Ukraine conflict, 2014"

本書では多数の作品を掲載しているが、ここで紹介する作品は唯一フィギュアがない作品となる。しかしこの作品は絶大なインパクトを我々に与えてくれる。兵器の破壊力、戦争の悲壮感や儚さを感じ取ることができる作品だ。「死んでいる」車両の作品は「生きている」車両の作品よりも、より地面の存在が大事になってくる題材。煤や灰、サビ、燃え尽きた鉄の質感は戦場のにおいを漂わせる。なおは本来模型で再現できない要素だが、パオジダさんの作品からはまるでにおいを感じさせるような迫力がある。その戦場のにおいが鑑賞者を強く惹き付けるのだ。また、破壊されることで露出するさまざま素材の質感や色が、ミリタリー色一辺倒の戦車模型に彩を与えてくれる。それもまた模型的アイキャッチとなり、目立つ作品にしてくれているのだ。派手なダメージエフェクトを与えるには、工作と塗装、その両方のテクニックが両立されていることが必須条件だ。しかしそれをクリアすることで、ほかの題材にはないインパクトのある、唯一無二の作品になるだろう。



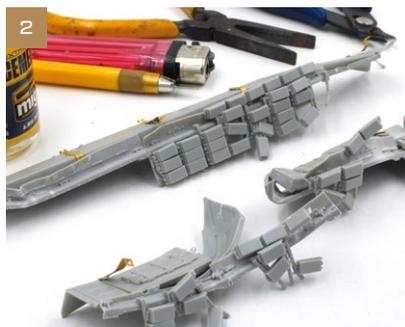
Step 1

車両の製作

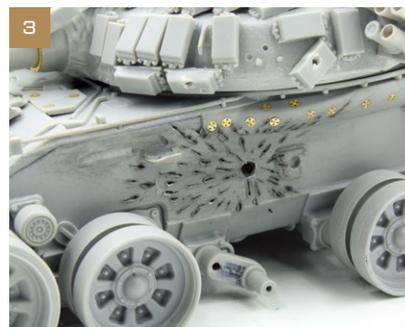
本作品の中心であり、唯一の役者であるT-72の製作に入る。トランペッター製のT-72はよくできているキットであり、それを活かしながら一部を破壊された表現に加工している。



▲トランペッター製T-72Bは秀逸な出来だ。本作品では転輪を一部バンツァーアート製のものに変更し、転輪ゴムが焼けて失われた状態を再現している。



▲サイドスカートにはダメージ加工を施している。焼けた部分を大胆にカットし、マッドガードを熱で曲げる。実車の写真を参考に作業した。



▲車体下部左側には対戦車榴弾が命中し穴が開いた様子を再現。小さな穴をあけ、周囲をヒートペンで加工した。

Step 2

車両の下地、基本塗装

焼けている車両だが、その塗装工程はこれまで紹介してきたパオジンダさんのやり方に沿っている。下地を塗装し、その上から車体色を塗装するやり方だ。焼けたサビ色は重要なポイントとなる。



▲マホガニー色のサーフェイサーを塗装後、アクリル系塗料を使いさまざまなサビ色を塗装する。明るいサビ、暗いサビ、金属色などを塗り分ける。



▲チッピング液の塗布後、2層目のアクリル系塗料を塗る。サビ色だけでなく、砲身や焼けたホイールには地金となる色を塗り、暗い金属色もランダムに塗る。



◀▲筆を水で湿らせ戦車に塗り、2層目の塗膜をランダムに剥がしていく。キズや剥がれを作り出すには、爪楊枝や真ちゅう線なども使う。



ISBN978-4-499-23438-2 C0076 ¥3900E

定価(本体3,900円+税)



9784499234382



1920076039003

ADVANCED TANK DIORAMA TECHNIQUES

THE CREATIVE WORLD OF KREANGKRAI PAOJINDA



Layout



Building Structure



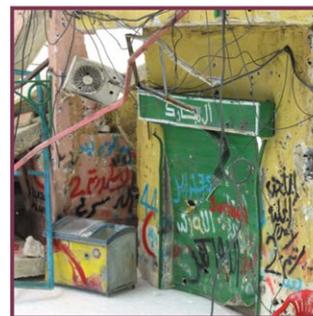
Figure Painting



Crafting Plants



Groundwork



Detailing



Painting Vehicle



Crafting Accessories



Crafting Nature

戦車情景上級技術ガイド

戦車模型マスター パオジンダのミリタリー情景世界